

第6回ほっかいどう元気なふるさとづくり交流大会

第1分科会（移住）

- < 事例発表者 > 川村 昌代 氏（NPO法人 上士幌コンシェルジュ
かみしほろ暮らし担当マネージャー）
- < ファシリテーター > 石塚 雅明 氏（株式会社 石塚計画デザイン事務所 顧問）
- < アドバイザー > 杉岡 直人 氏（北星学園大学 社会福祉学部 教授）
- < 日時 > 令和2（2020年）1月31日（金） 9：00～ 10：50
- < 会場 > TKP 札幌駅カンファレンスセンター 2階 カンファレンスルーム2F

事例発表

題名を何にしたら良いかすごく考えましたが、自治体の方が多く、移住された方やいろいろな立ち位置の方がいるかと思ひ、「あなたの町に移住してもいいですか？」にしました。これを聞いて、皆さんはどう感じられるでしょうか。私は移住を担当してもらい、今年4月で10年目になりますが、この題名の問い合わせが多くあります。「移住してもいいですか？」と聞かれるので、「なぜ私が決めるの」とメールに突っ込んでいます。最近、多くなっている内容ですので、今回はこの題名にしました。



自己紹介をさせていただきます。私は、川村昌代、上士幌町生まれです。中学卒業まで上士幌町で暮らし、その後、高校は札幌、大学と社会人としては20年間関西にいました。当時私は、上士幌町に帰る気はなく、京都に長くいたので、生涯、京都にいただろうと自分でも信じて疑いませんでした。しかし、両親が老いてきたので、兄弟皆が両親に「自分のところに来ないか」と誘いましたが、「本州には住みたくない」と断られました。そのため、誰かが上士幌町に帰った方がいいだろうと判断し、2008年10月下旬頃に独身だった私が上士幌町に帰ってきました。翌年、役場の臨時職員に採用され、4年弱勤務していたことで、今のNPO法人上士幌コンシェルジュに入るきっかけができました。

臨時職員時代に、旧豊岡小学校で行われていた林間学校に連れて行ってもらいましたが、林間学校に来る人達や周りの人達は「上士幌町は良い町だ」と言います。しかし、私は、正直嫌々帰ってきましたので、その発言に驚き、その方達とのギャップをすごく感じました。同時に、帰りたくなる町を作りたいと思っていましたので、臨時職員の期間に、NPO法人を立ち上げると聞き、よそ者が町に意見を言うと地元の人達は嫌がりますが、私は地

元出身ですので、ある程度何かを言っても、「また川村が何か言っている」くらいで終わり、また、本州での生活も長く、本州の人達の考え方もよくわかっていましたので、「私、もしかして適任かも」と思い、平成 23 年 4 月から現在まで町から委託事業として、移住定住のお仕事をさせてもらっています。

「NPO 法人上士幌コンシェルジュ」ですが、現在は理事 4 名、職員 5 名とアルバイト含め 12 名で活動しています。「人と町を繋ぐ NPO」として、5 名の職員で大半は町の委託事業ですが、いろいろな仕事をさせてもらっています。私が担当している「生活体験モニター事業管理運営業務」では、お試し暮らしという事業をしています。「かみしほろん市場」というインターネットショップの運営も町から委託を受けています。また、「ふるさと納税感謝特典推進業務」というものがあり、町に寄附した方への返礼品の伝票を作成し、生産者に届けることも行っています。この業務には職員 3 名が従事していて、伝票を出すだけでなく町と生産者のやりとり等の中間業務も行っています。

その他にも自主事業として、町に観光案内所がないので、私達が観光案内を自主的にを行い、おもてなしマップという町内の店舗等がよく分かる地図も作っています。町民に向けては、毎月 1 回「かむかむ」という情報誌を発行しています。また、私が臨時職員の時に行った林間学校を開催していた「旧豊岡小学校」ですが、コンシェルジュが買い取って、「豊岡ヴィレッジ」として開校し、昨年 6 月にイベント開催をかわきりに、主に週末にカフェやランチ提供を行いました。

「かみしほろ情報館」が私達の事務所です。いろいろな方が集えるスペースもあるので、ここでも活動が何かと生まれています。

時間がないので、移住のお話をさせていただきます。お試し暮らし事業について、皆さんはどの程度知っていますか。北海道での移住を考える人のために、住宅を安く提供し試しに住んでみるという生活体験事業がありますが、その業務を上士幌町では私が行っています。全道でも 144 町村くらいが行っていると聞いており、『北海道で暮らそうガイドブック』という冊子もあります。今日お越しの自治体の皆さんの中には「生活体験住宅が空いているから、移住目的ではない方にも、とりあえず入居はやむを得ないでしょう」となっていないですか。町長や議員、議会等に利用人数を報告しなければいけないので、体験者が少なくて住宅が空いているより良いからと観光者に住宅を使わせていませんか。体験者に楽しんでもらうというのはもちろんありますが、「よその町村では、何してもらった」などと言う人や地元民との交流を楽しみに来られる人達もいます。彼らの気持ちに答えようと、その対応が義務になって、苦しい思いをしていませんか。

上士幌町の 30 年度の実績ですが、生活体験モニターの利用者が 56 組 132 名、実際に移住された人は 7 組 16 名いました。30 年度までの累計では、90 組 176 名です。移住や二地域居住の問い合わせが、電話やメールで年間 93 件あり、お試し暮らしをしたいという生活体験モニターの問い合わせが 199 件、その他、今はありますが、この時は不動産会社がなかったこともあり、「住宅はどこだとか、どうしたらいいのか」という問い合わせが年間 237

件、私のところにありました。生活体験モニターのお話しをすると、「人生の楽園」等のテレビの影響も結構あるのか、シニアの方達が第2の人生として田舎に行って暮らそうなどの動きがありました。また、東日本大震災後は、子育て世代の利用も増えました。小さい子供を持つ親御さん達が「子供をどこで育てたいか」を考えるようになり、体験者層が少し変わっています。

テレビの影響もあると思いますが、移住を想定していない観光シーズンのみの希望者が申込んできます。「観光目的では駄目です」と言っていますが、お試し暮らしそのものが移住だと思っているので、悪びれもなく申し込んできます。一体、何しに来るのかというと「観光」、「ゴルフ」、「アウトドア」、また旅館やホテルと勘違いしていて、「ホテルより安くて良い」などと話す方もいます。「本州は夏暑いから避暑のために利用したい」「海外でも良いが、北海道も良いかな」という方や、道内を練り歩いている方、体験期間がお盆や正月の場合は子供や孫に利用させたりする方もいます。また、登山のために利用されることがあります。最近では、地元の人達と触れ合いたがる方もいて、特にシニアの方達は「町の人達と触れ合えて、楽しかった」と言って帰ります。お金を払っているのに、「何を言っても良い」という気持ちを持った方もいます。花粉症の方が避難する目的で避難所として来る方もいます。観光の延長にあり、体験ツアーの一つとして生活体験住宅が使われているのが現実です。昨日のお話しでありましたが、それらを一番良い言葉でまとめると「交流人口」や「関係人口」だと思います。

ただ、シニアの方々も移住や二地域に繋がっている人もいます。皆がダメなわけではありません。そして、本当に移住を考えている人達として、先ほど話しましたが、子育て世代が増えています。「自然豊かな場所で子供を育てたい」と真剣に移住先を探す人もいる一方、簡単に移住を考える若者も増えています。「とりあえず、家と仕事があれば移住したい」と言われますが、「そんなに簡単ではない」というお話をします。そういう方達は社交性があまりなく、人当たりも苦手な人が多いように思います。なので、「田舎の方が住みにくい。田舎こそ社交性が大切だ」と伝えています。「田舎は、野菜をよくもらえると聞いているかもしれないが、嫌な人にはくれない」という話をし、もらいつ放しではなくもらったら返す、その人間関係ができて初めて、田舎暮らしを楽しめる。とりあえず家と仕事があれば、今の場所から逃げたいという感覚では、どこに行っても同じだという話をします。

また一方で、上士幌町はメディア受けがすごく良く、役場もメディア発信を相当頑張っているのに、子育て世代の方からの問い合わせが多くあります。「無料」という言葉に惹かれて、問い合わせがきます。今は、国が制度を少し変えたこともあるので、全国的に子育ての制度が変わってきているはずですが、それでもシングルマザーの方達を中心にすぐに移住しようとしてます。メディアやネットを見ただけで、ましてや生活体験もせず、町に来たこともないのに、「移住したいのですが、いいですか」と言われます。今回の題名と一緒に。そのようなメールが本当によく届きます。私はその度に、彼らの本当の移住の目的を探ります。「なぜ、移住しなければならないのかをよくわかっていないと、上士幌町に来

でも失敗する」と、いつも話しています。

本当に移住を考えている人達は、夏ではなく、冬を体験してから移住を考えるといます。一番言いたいことは、「上士幌に移住したいと思うなら、まず1日でもいいから、町に来てください」と伝えています。例えば、私がどこかで語っていることを聞いて、「良い」と思い、上士幌町に来るのは間違いで、「自分の足で降りて、自分の目を見て、役場も子供の学校等いろいろなところに繋いでくれるので、実際に町を見て決めてください」と話しています。私達の事業は、すぐに成果が出ません。また、出てはいけないと思っています。移住を決断する時に、インターネットで調べて「ここの地域が良い」と考えると思いますが、その町が自分に合っているかどうかは別問題です。

役場に予算をつけてもらい、いろいろな活動ができているのも、役場の担当者が移住者数を報告しているからなので、綺麗事ではいかないかもしれませんが、どういう姿勢で取り組むかが、私は一番大切だと思っています。どんな仕事でも、何にこだわりを持って仕事をしているのかを言えるのならば、移住者の数字があろうがなかろうが、上司に報告でき、誰に対しても「私はこういう仕事をしている」と言えると思います。その方が町に来て欲しい方なのかを考え、ある程度は「NO」という対応がすごく大切だと思います。中には、自分の町には合わない気がする人もいます。行政はなかなか「NO」とは言えません。体験住宅についても、体験の解釈が幅広く都合の良いように捉えられ、「移住向けだ」と伝えても「体験そのものが移住」と考えているシニアの方達がいるのをすごく感じています。私は、「イチから住」というテレビ番組が嫌いで、「1ヶ月、移住してみた」というナレーションに、「それは本当の移住ではない」といつもテレビに向かって突っ込んでいますが、そういう番組の影響もあるのかなと思っています。

それから、申込書には書かずに、いろいろな人を呼んで勝手に使っている人もいます。光熱費、水道、ガス全部含めて、1日3,000円から4,000円で泊まれるところに、夫婦で申し込んできて、最大で13人ぐらいの登山の方達がテントを張るなどして泊まっていたこともありました。役場に話して、翌年から、上士幌町では親族や関係者しか使えないことにしました。一番良くないのは、私達の税金が財源であることで、そこに問題があると思います。これが、民泊等であれば良いのかもしれないですし、彼らもしないでしょうが、私達がやっている事業の財源は税金です。最初は「関係人口になるから良い」と思っていました。数年後から「本当にそれで良いのか」と悩み、今でもどう落としどころを作るべきかを悩んでいます。

「NO」と言えない時はどうするかというと、町の中で協力者を作ることや、お互いのバランスをうまく相手に伝えることだと思います。何より嘘をつかないことが一番良いと思っています。「どういう気持ちでやりたい」「何をしたいのか」はどの事業でも大切ですが、「どんな人に移住してもらいたい」「そもそも移住者がたくさん来ないと困るのか」「どういう市町村にしたい」ということも大切で、自分が担当になったら、「どういうことを思っているか」ということを少し考えてみることも大切だと思います。

「とりあえず家と仕事があったら移住したい」という方は、今の暮らしを変えたい方で、「彼らに必要なことは何だろう」と考えるのは別に「自分の町が誇れることはなんだろう」と考えてみることも大切です。「移住してもらおう」のではなくて、「移住して欲しい人を繋ぐ」という意識が大切です。「誰でも移住してくれたら良い」という考えでは、好ましくない人も移住してくる可能性があり、それによる移住増や人口増は本当に良いことなのかと思っています。

移住は、移住者側が思いを持って決めることです。私達に流されて移住定住する人は、駄目だった時に「話が違う」と言い出す可能性が高いので、私は「自分の人生、自分で決められないで、人に言われて移住して、そこで話が違うと言うのは大きな間違いだ」という話をしています。移住もそうですが、自分の人生は自分で決めないといけません。

上士幌町に移住者が増えている中、町に住んでいる方達の中には、「英語を話せる」「手話ができる」「旅行代理店の資格を持っている」「調理の資格を持っている」などのお宝さんがいっぱいいます。今いる町の方を掘り起こすことがすごく重要ではないかと思っています。「とにかく数字がいるから、誰でも良いから来てください」と言わなくても良いように、「どんな町にしたい」「どんな人に来て欲しい」ということを考えれば、自分がどういう仕事をしていけば良いのかわかってくるはずですよ。

「町を好きな人」「町を好きになってくれる人」「町で何かしたいと目的がある人」、そのような方が町にいることを感じられたら、町にいる移住してくれた方や町に暮らす地元の方達を大切に、その方達を巻き込んだ展開をしたくなると思います。私は、毎月1回、「誕生会（交流会）」という夕食の持ち寄り会のお手伝いをしています。これは21年前に兵庫県から移住してきた女性が主催しています。彼女が移住してきた時に、同じ若い世代の移住者の方達にご飯を食べたり、お正月を過ごしたりなどしていたことが、今も続いています。私もNPOに入り、この仕事をするようになってから関わらせてもらっていますが、「移住を考えている人」、「生活体験中の人」、「ひょっこり来た人」等が参加しています。移住に関する問い合わせがあったら、「ぜひ、誕生会の日をターゲットにして来てください」とお声掛けをしています。ここでは移住された方と町の方の両方の声を聞くことができます。ここでの出会いがいろいろな人との出会いに繋がっていくので、この会はすごく重要だと思っています。

この会の中で「上士幌町はここが良い」、「ここが駄目だ」とみんなで話していた中で取り組むようになったのが、フリーマーケットです。今回は3月28日開催で、30回目になります。音更町や帯広市まで行けば、フリーマーケットはありますが、上士幌町ではなかったので、最初は移住してきた方と一緒に始めました。今は、器用なお母さん達等が作品を作って簡単に売れる場所を提供する目的で、商工観光課さんに後援してもらい開催しています。私は事務局もさせてもらっていて、将来的には、道の駅やいろいろな場所で出店できるようになり、常時商品を置けるようになったら良いなと思っています。そのように考える理由の一つは、上士幌町には子供達が買い物をする場所がないためです。私がお子

の頃は、友達の誕生日プレゼントを町内で買えましたが、今は買う場所がありません。お母さん達の手づくり品や陶芸をやっている方の作品等をプレゼントとして買えるような場所ができれば良いなとすごく思っています。また、「リサイクル」という概念でも出店しています。前は18店舗でしたが、その前は26店舗出店していました。土曜日に開催するようになってから、出展者数も増え、少しずつ知名度は上がっていると思います。

その他の活動として、十勝では仮装盆踊りがあるので、毎年、みんなで仮装して出場しています。昨年は上士幌町で準優勝、隣町の士幌町でも参加し優勝し、みんなで盛り上がりました。参加者は移住者の方達が大半です。昨年、町民の方から「参加できるのは移住者だけだよ」と言われて、ちょっとショックでしたが「誰でも参加できます」と伝えてあります。旅人が入る時もあります。2015年から参加していますが、「いつか上士幌町で優勝する」という野望を持ちながら、みんなで交流しながら頑張っています。

課題としては、すぐには成果が得られない事業だということと、生活体験事業でシーズン希望者が増加していることです。これまでの体験者に「関係人口」、「交流人口」になってもらうことを意識することが重要だと思いますので、「観光以上移住未満を増やす」ことが一つの落としどころだと思います。

町を好きになって帰ってもらうことは、町の応援団に繋がります。地元に戻っても上士幌町のことを気にかけてくれていることがあるので、邪険にできません。ただ、一番大切なことは、背伸びをしないで、嘘をつかないで、ありのままを見てもらった上でのご縁を大切にすることです。それが本当の応援団になると思います。生活体験者が数年後に移住してくることもあります。何がどう転がるかわからないので、その時に「ああ言った、こう言った」とならないようにするには、やはり嘘をつかないことです。

役場では、まず庁舎内で課を超えた協力体制を構築することが必要です。移住者が1人来ると、住民票発行の町民課から始まって、子どもの関係で教育委員会や福祉課などいろいろなところに繋がりが出てくるので、チームワークがすごく大切だと思います。上士幌町役場の担当は、ここがすごく長けていると思います。庁舎外でできることとしては、町民に協力者になってもらう必要があると思います。地元の方や移住者が協力者になっているかいなか、なってもらふ努力をするかしないかでは大きな違いが出ると思います。

また、私は何かあれば手書きをしています。昨日お配りした上士幌町の移住の冊子の中にも、私の手書きイラスト等を載せてもらっています。町の方達や移住者の方達、東京でのイベントでDMを送る方等に、自分でチラシを書いて、送っています。

私は、どんな仕事をするにしても、自分でどうありたいかを考えることが出来れば、何が出来るかを決めていけると思っています。

意見交換

移住におけるステップ（「町を知ってもらう」→「町に来てもらう」→「町に住んでもらう」→「町に住み続けてもらう」）ごとに、何をすれば良いのか、どういう課題があるのかについて意見交換が行われた。